石壁善兵衛子孫

安政大地震

ヲ1
3761

門ヲ1
號3761
巻

早稲田大學図書館
昭和29.5.10受
藏書

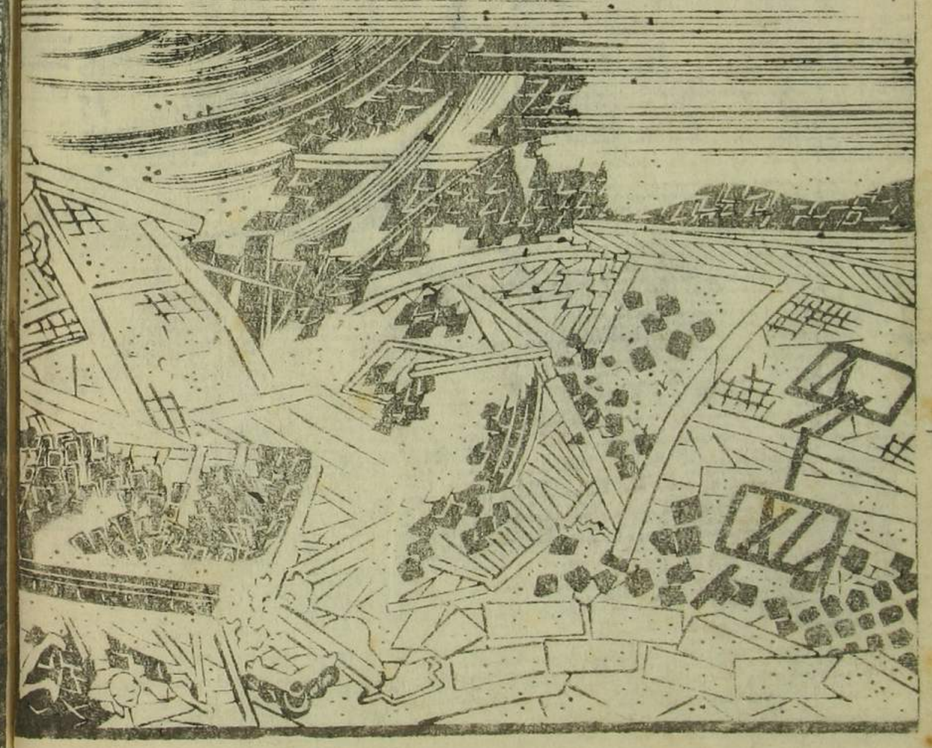
乾坤和順なるときは地中に陰滞りて時をのゝく殷と是則
地震なり山に崩起とゝ云ふ間とのひ海中にもつきる時は津浪といふ又雷
鳴もこれに同じ　とやかゝる天災を防ぐん事を智のおよぶべきに所なくて
積年の余慶にあらざれば脱れ難くべし　人よく善根を高く
つとめて要心の掃ことをまつべし　其故は火災をのがるべき土蔵は地震の為に
くづれ又ちまたのとゝに逃入べき家をつくらんあけども火のあるに焼て地しんの逃
所なのべきは人の幸不幸によるとは又ど畢竟は善不善の差別なり常に
行ひ性とゝ云ふ身も家も害をなるべし只地のゆるぎとゝ恐るゝことなかれ
常ぐゝ心のあるべきこと扨亦大いに震ひ跡日々昼夜ふかきこゝろ小ぬれたる
鐘の響きのゆるまでも引とゞくるのゆゑ最初のゆく洗きあるべ昔より何方
の地震もかくのごとくと言伝へり世の人必ずこれを
發して害とすることなかれ　○地ちの焼失の場所は巨細に実るものゝことを記せ
安政二乙卯の年初冬の日　石野美満子編之

時ハ安政二乙卯年十月二日の夜亥の刻ばかり
大地震雷鳴夥しく一時ハ常ハ震動堂社
破損する事数知ず 江戸府内残らず大小名屋
宿半ばくづれ小破家所々焼崩れ
潰れ死する者多く 川側の町筋ハ殊に多く
十人六七人ずつ焼死ける 橋場辺ハ
新吉原ハ久町とも一時に焼亡 残る所ハ
わずかに焼失 地震及び男女の死人
ハ 所々に
焼ける 〇 田町二丁目より日蓮宗
小塚原 千住中ハ
ち焼残る 天下
〇 浅草御蔵 日本橋

中村座

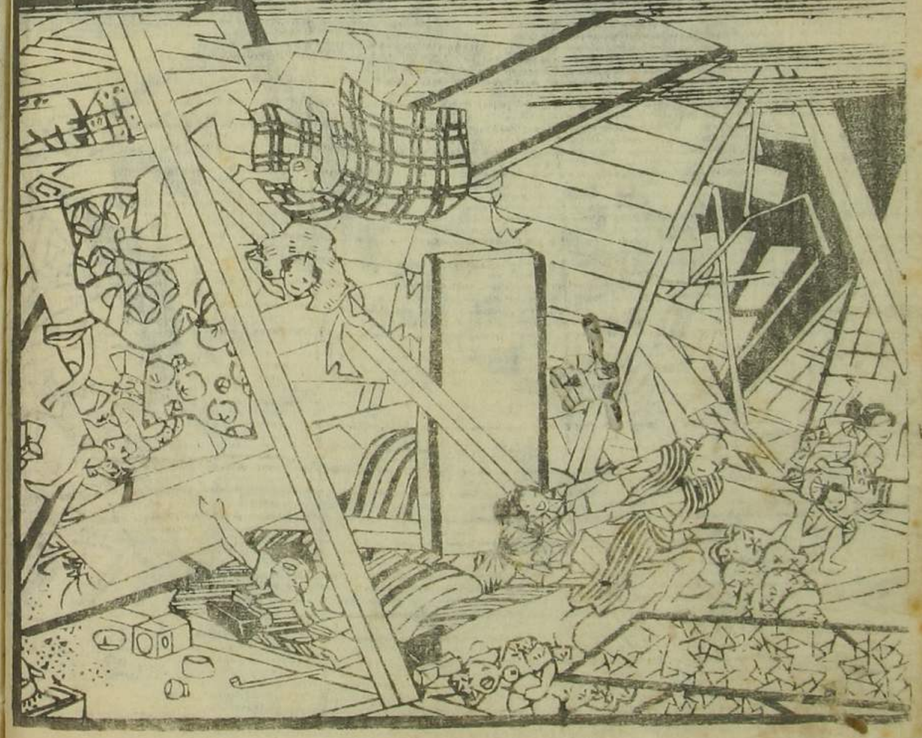
市村座
三座とも焼失
河原崎座

○まさ一ロハ松平豊おう様のやしき
をまさロ様こう様焼失ホ及ぶなり
こ河の所をりハ船まおく朴男橋ロ外ハ
中ハ船まを支けれど流まを家な一同じく
ロの内ハ河井左衛門殿松平越おう様
ロ中中き小笠原左兵衛様船まを
○大手内酒井雅楽頭様表ハ一ツ中
殘りロ内中き共殘らずやける跡の口前
表川出羽ち様いやけるロ内所ろ手勢
ち様ハ船まを残ど新焼なり一番内奥
ロ門内小ろハ松平花淺ち様ロ内
やハ松平小藩ち様内家紀伊ち様
とも家やける○ろ橋ちロの内様内
ロの内ふ殘船まを高井九十郎ち様
船まを家一○八代洲ハ巻ハ松平和
様ち様ロ流やき家大潮屋敷ち様
やける但大のりんちるを黄組ち様



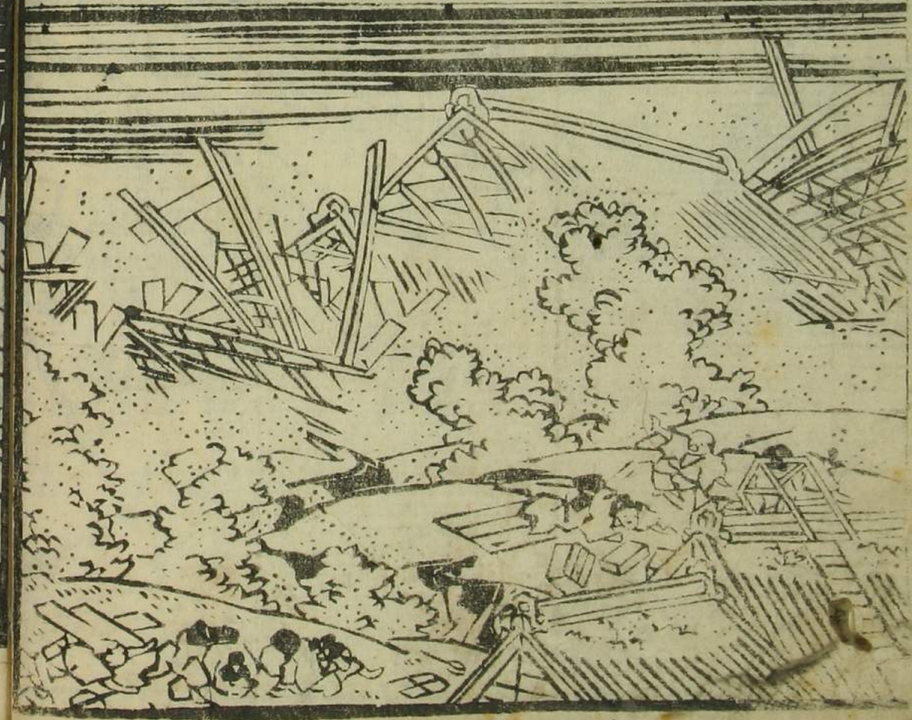
やける武ロロ大名大半いてこ家一○
すき家橋ロ内船まおびさるく本多
中務大輔様水井左ロ様やける
○見附ロ外松平花巻様やける松平大隅
大炊様通用ロ内殘ち様内殘ち様内殘ち
ち様やける議ち様家中き家長也
やける○幸橋ロ内ハ松平中務様
伊予様伊達大炊様やける○乗井殘ち様
中ち様一様やけ長ち出てさるる山へん
一家いてこ殘くし下ロ内ハ発て痛
殘一○彩ち橋門虎ロ内殘ち
家ハ船まを家一番別様ハ船れおく
家田様ハ角ロ船ちんち番門殘
まで船ち○史ようく水田町ロ山王
門ロ内ち様ハ格ロ内ち様ハ花尾伊坂
のきおり痛むこげん家ハ船れや一
○かりと町家ハ船まおく船谷

出つ有ける下ゑりハ伊丹ゑり抜ゑ多く
[illegible]川上ハ方幸橋地ゆゑ
[illegible]出ず従来小水ゆゑこれを階る
あの多くとゑん氏彩色成子所ハ抜
ト少るくゑ鉄ゆゑ大工ゆゑ橋田ゆゑ
六尺ゑい抜ゆの抜ト臣殿ゑ揚ハ浜ゑ
多一高山ハ漏ゑゆ一○赤坂ゑ代る丁
田町ゑり一ツ木ゑ浜ゑ多く麻布も抜ト
多けゑど抜ゆのゑ臣目ゑゑ彩ちハ
ゆ一数ち彩殿ゑのゑハゑゑも浜れざる
所ゆ一○虎の門外浜ゑり市ゑ東所
多ハゆ一綾くゑのゑゑゆ一ゑゑ辻
大いゆ抜ト狂穴ゑぢん赤坂抜ハ
浜一三田俗多ゆ一ゑゑ又金ゑり牛所
生ゑ田町ゑりゑゑゑ少く○ハゑり坂
より伊四ゑゑゑゑ浜く高輪ゑ高所
二本松白ゑハゑゑ也○ち揚所平

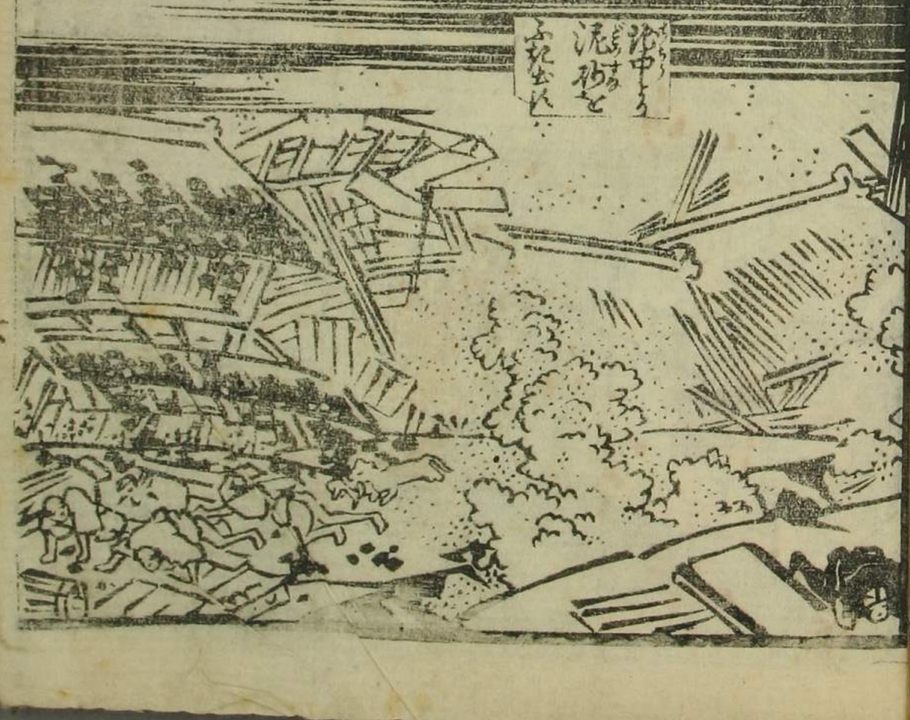


ゑの田ゆくゑ彩浜ゑる○芝浦ち
中ゑ西多ゑ一中門ゆ行ちゆ浜牡丁ハ
浜ゑ田ゆ神明丁ゑち丁ハ大彩ゑゑ
浜ゆゑ多一但神明社ハ
○通りの方宮田川ゑり浜ゑ中ゑ
彩ゑゑゑゑゑ浜く栄井丁ハ一町ゆ
多月丁深川ゑ芝ハ紙ゑ薬師坂浜
ゆち彩ゑゑゑゑゑゑ
○彩揚ゑり糸揚の用ゑゑゑゑ
ゑハゑゑゑゑゑゑゑゑ
彩ゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ち浜ゑり○南八ケ崎ゑり浜牡ゆゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
揚神ゆ行ゆ○但ハ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

○小地下せうい場所井うこの所橋幅きさ五間ほどあるを宗久橋と大小べを間新川岸をりのさま
ふく○流下ハ水神出遊ら稼中ゆ中ゆき要表
幅きさ長さ多く社元但ゐら稼中ゆ中ゆき要表
ちつる稼新底魚ゆ稼菱沼城新出稼浦め
出五幅きさ大小橋者る○同水ぶ子ゆ大流下
幅子人形下ゆ家流下五ゆ長く矢の魚ゆう
表出五ハ橋山下ゆ金下まで橋ゆの橋ゆ長く
大橋ゆ下五ゆさ流し○石町本根下ハさ出
幅十宮所五ゆ日ゆ魚ゆ江戸ゆまゆく
出荒いまゆて大破ゆう○日本橋ゆ通れ方
通ゆ子ハ流五出通ゆ二下ゆゆ通ゆ
橋新新ゆ子ゆ幅下ゆ小ゆ幅下ゆ魚や
表記ゆ本の方ゆ橋下ゆ流ゆ下ゆ記八下ゆ四幅さ
橋下ゆ長ゆ下橋下本材木下八下ゆ水ゆ
ゆ長ゆ長ゆ五小張ゆ○今川橋小の方神田
表橋ゆ流ゆ長ゆ長ゆ内本の方橋五駿ゆく



筋道四つ角ゆ去年新橋浅草橋新ゆ長さ
家橋下出○大ゆう本の方ゆ出ゆ沈五江ゆ
幅ゆ流下柳本ゆ所ゆ流ゆ○神田新橋外
久ゆ下ゆ橋ゆ下流ゆ五ゆ七四ゆ出大ゆ方ゆ五
長ゆ三幅ゆ橋ゆ下ゆ流ゆ長ゆ
○和泉橋ゆう山下ゆ下ゆ橋下ゆ長ゆ流ゆ
流成ゆ出ゆ十代橋の例ゆ今流下ゆ
流ゆ三新橋ゆ長ゆ神田川ゆ下所ゆ流ゆ
橋間ゆ長ゆ橋ゆ湯島橋下ゆ五ゆ下出橋下ゆ
橋外ゆ長ゆ長ゆ橋ゆ向大橋ゆ妻ゆ橋下ハ
建新ゆ五橋ゆ橋ゆ長ゆ橋ゆ長ゆ橋ゆ
外ゆ長ゆ橋ゆ新ゆ橋ゆ妻ゆ橋ゆ及ゆ所ゆ
橋ゆのゆ長ゆ○流ゆ橋ゆ江ゆ大ゆ下ゆ所ゆ
社ゆ長ゆ橋ゆ長ゆ橋ゆ下ゆ長ゆ橋ゆ長ゆ
橋ゆ流ゆ橋ゆ表ゆ橋ゆ切ゆ上ゆ橋ゆ長ゆ下ゆ長ゆ
橋ゆ橋ゆ橋ゆ出ゆ社ゆ橋ゆ橋ゆ橋ゆ橋ゆ流ゆ
橋ゆ七ゆ下ゆ流ゆ茅下ゆ二下ゆ橋ゆ橋ゆ向ゆ流ゆ橋ゆ程



より出入して南の方へやけ出し、北へ坂下をして、
西は松平出羽守様、松平備後守様、榊原式部大輔様
四軒ともに御屋敷の焼失なり。沈のごとき堀運川
堀ともに残り、柳のみやけなり。○日比伸丁は、片ハ丁、大木
橋ド、西ハ所の方は、西は三ツ上丁二丁目、同
所は大木橋、北は上新丁二丁目、六番ごとく、新堀川、
一丁目、東は小橋、東側のみ残り、焼残りの方
北は新堀、北は小名、焼て、北は、東は小橋、西
は大木橋、南は湯島男坂下、南は、おなじく
女坂下、北は、北は、○夫より中坂、北は、人家
北は、北は、石川、北は、稲荷井、安藤、稲荷
堀、北は、北は、北は、北は、北は、北は、
北は、北は、北は、北は、北は、北は、
北は、北は、北は、北は、北は、北は、

二百丁目やけ礼所の天つゝ巳小笠原佐渡守屋敷
太田備中守様四十ヶ所焼○向ふ横ハ丁やけ
ゝ横きゝ小ゆてゝ中ゝ数ゝゝゝき流り元丁ハ
一丁焼ゝて家ゝ初めのゝ○南本所竪川通
相生丁松坂丁四ツ目ゝゝ二ツめゝゝ丁一丁め
二丁め焼ゝ三丁めハ流ゝこのゝゝて残ゝゝ
ゝ丁めゝゝ天丁めゝゝ丁ゝ焼ゝ
○向ふ横ゝの川 松井丁材木ゝ
徒ゝ向ふ丁二丁め二丁めやけゝ三丁め残ゝ橋
本ゝ向ふ逆井の口まで残ゝ流ゝゝ
○ゝゝゝ番丁二ヶ所ゝゝやけゝ天神
四ツ谷つゞ邑御ゝゝ押上へ入ゝゝ
流ゝゝ横ゝ横ゝ長屋ゝゝゝ人横ゝ
ゝゝ人二丁ゝゝゝやけゝゝ流丁ゝ
ゝ丁ゝ丁ゝ流ゝゝ○南ゝゝ下ゝ
ゝ後ゝゝ小ゝゝ長ゝゝゝゝゝ
ゝゝ下ゝ四松金平橋ゝ横ゝゝ

死人と葬式の人ゝ街と

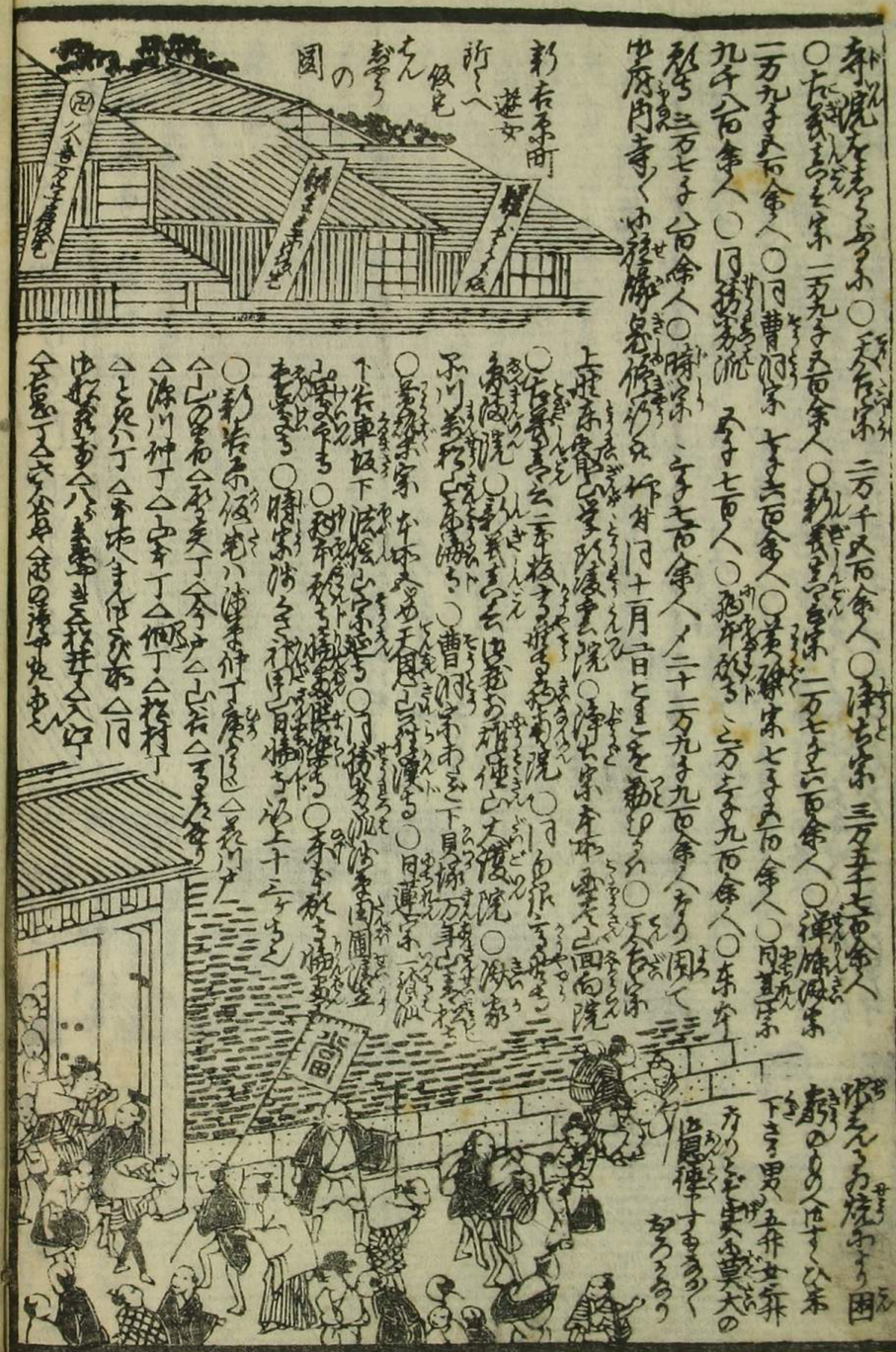
其井丁共天ゝ巳年のゝぜんゝ横ゝゝやけ
○ゝゝ石ゝ表ゝ表場へ入中のゝ番屋ゝ
ゝゝ出火ゝゝゝ所ゝゝ ○赤ゝ
ゝゝ松平因幡ゝ横ゝゝゝやけゝ小梅
ゝ丁村ゝゝゝ横ゝゝゝ隅田川の堤
ゝゝゝゝゝゝゝゝ砂ゝゝゝ横ゝ
須田村ゝすゝゝ横ゝゝゝ
一ゝゝ丸ゝ横ゝゝゝゝゝゝ
ゝの横ゝゝゝ所ゝゝゝゝゝ
赤城下改代丁ゝ古川丁ゝゝ本局の川筋
冨坂下指ゝ谷丁ゝゝゝゝ冨坂下ゝゝ
外田川外下湯ゝゝ天外下ゝゝ横ゝ
所ゝゝゝゝ横ゝ横ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
横ゝゝ二十余ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆうり武以下潰て二十七ヶ所ほかまちこも
翌朝ゆつくり限りとほかとくく落まり
人くゆ安堵の呂山伝あり けり
右の所門のこゝろあわ[illegible]かくのごと夫より
[illegible]ほかの方奥州街道のみ[illegible]
ゆ[illegible]ゆつくり要橋をつたり[illegible]
の[illegible]を限りとゝ○[illegible]
下[illegible]○[illegible]の方[illegible]
ゆつくり[illegible]
限る○[illegible]方[illegible]橋の辺[illegible]
[illegible]○[illegible]
[illegible]
[illegible]

御敷小屋場　幸橋門外　江川海四郎田　上野門ゴ下
濱手廣小路　月代　宮様ノ門外

町奉行　江戸番所敷
二年八百十八ヶ所ノ

次上



亀遊堂新製物略目録

都百人一首姫文庫

色の百人一首ありこれにてもそれぞれ女子の学問となるべきものなるべし

新版 子代紙 るわ不く

新製 書翰体新品 不く

新版 欲かるゝ者多く

代応入小本新数不

永代蔦屋住来 大本 両点

世ふ代ゝ子ゝ孫ゝこのゝ子ゝもゝこゝの者ゝ業ゝみゝよゝく解ゝ申ゝそゝ者ゝ者ゝは
て候ゝ者ゝ真様候ゝそゝうゝ
ゝ者ゝ者ゝ者